
史上最強の平和主義者

黒黒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

史上最強の平和主義者

【Nコード】

N2775P

【作者名】

黒黒

【あらすじ】

ある男が自分の世界を追い出され最強の武人が集う【梁山泊】へ住み込み、史上最強の弟子を育て上げる！

プロローグ（前書き）

完全ご都合主義です。

プロローグ

ここは何処だ。

俺は、なぜこんな所にいる。

「貴方は選ばれたのです。」

・・・選ばれた？

「貴方はお亡くなりになりました。しかし、転生の許可が出ました。」

「

転生物の二次小説かよ。

つてことは何か？じゃあお前は神様だったか？

「いえいえ、そんな簡単に神様じきじきに御出でになるなんて事はまずありえませんか。」

私は神様の御言葉を伝えるための天使ガブリエルです。」

・・・で、なんだ？

「貴方は生前。あの世界だったら最強の力を誇っていました。だからこそ起こった事態なのです。」

どういう意味だ。

「人には人の魂が有る。動物には動物の、植物には植物の、天使には天使の、神には神の。それは不動の理。植物が動物になることはありえない。動物が人間になることはありえない。人間が天使にな

ることはありえない。天使が神になることはありえない。

それぞれが成り立ちを決められ、限りなく近い物になるとそれは別物。

しかしそれでも、その理を侵す者はいる。

貴方は、武を極め。境地に至り。覆した。

なので貴方の意識を一旦切り、処置を施しました。

そう、厳密に言えば貴方を殺したのは我々ということです。」

「……だったらなぜ元の世界には戻れない？処置を施したんだろ
う？」

お前らが殺したんだ、どうにか出来ないのか？

「あの世界は影響が出すぎました。あなたの魂が降り立つ余裕がありません。

それこそ、貴方が行けば崩壊します。」

それじゃあ、まあ、帰れないな。

「冷静ですね。普通は取り乱しますよ？」

『武人、いかなる時も冷静で在れ』基本だ。

「流石は世界を滅ぼしかなかった【魔王】と言っても良い存在、
言うことが違いますね。」

俺はドラ。エにでも出ていたのか？

「おや、知っていたのですか。ド。クエ」

ずらすなよ。伏せてる意味ねーじゃん。

俺は大体の事は両立してきたと思っているぞ？遊びに関しても、武術に関しても。

「そうですか。では、世界は貴方にぴったりな『史上最強の弟子ケンイチ』の世界です。」

・・・そうか。

「静かに殺気出すのやめてくれませんか？」

これでも武人なもんでな。強敵に会えるかも知れないのだったら。わくわくするだろう？

「・・・ま、良いでしょう。さて能力についてですが。」

『デュラララ！！』の平和島静雄の体が欲しい。

「ホント良く知ってますね？」

普段は武術関係の物しか読まないがな。友人に借りた。

「そうですか。・・・はい、出来ました。服は、貴方の服を入れたものが近くに有る筈ですので。一応バーテンの服も入れておきます。それでは、良い人生を」

む！落とし穴！？

「あと、年齢は主人公。つまり白浜兼一の一つ上ですので、入学手続きも済ませて有ります。貯金は通帳に100億入ってます。原作の一年前です！」

もっと余裕を持って言つべきだろう!!

「あ、後貴方の名前は。。。。です!!」

そこで俺の意識は切れた。

side 秋雨

「。。。。しぐれ、アパチャイ君。それは何だね？」

「拾つ。。た」

「アパパー、あっち落ちてたよ」

「とりあえず運ぼうか。」

そういうと【哲学する柔術家】こと岬越寺 秋雨は青年を『梁山泊』へと運び込んで行くのであった。

・
・
・
・
・

「さて、ただ気絶しているだけの様だな。しかし、すごい体だな。」

「うっ、な、ここは。。。。っ!？」

おお、見事な裏拳。

「なっ！？避けた！」

間合いの空け方が素人じゃないな。

「剛拳流、秘技『圧』」

「くっ！！」

ギュンッ！！

「また、避けた。・・・岬越寺 秋雨？」

「いかにも、なぜ私の名前を知っているんだい？
道場破りかい？」

「いや、そんなんじゃない。ただ、ここの長老に会わせてくれないか？」

「・・・ふむ、アパチャイ君。長老の下へお連れしてくれ。」

「アパパー、解ったよー！」

・・・

「それにしても。」

秋雨が避けた先には決れた地面が・・・

「殺気丸出したったね・・・」

side out

さて、どうしよ。寝起きだったからいきなりあんな技使っちゃたよ。と言うか、威力が段違いだったな。

「ここだよ。」

「ありがとうございます。」

・
・
・
・

「ほっほっほ、で、何のようかね？」

これが【無敵超人】か。

「俺を、ここに置いて欲しいんです。」

「ふむ？」

「必要と有らばこの生活費を可能な限りだしましょう。」

「なぜ君はここに来たのだね？そんなに若いのに。」

なぜ、か。

「最強の武術家たちを見て。この身で感じたいからです。その強さ

を。」

「その強さを君は何のために振るうんじゃ？」

「俺は……………」

・
・
・
・
・

「良いじゃろう。幾らでもここに居るが良い。」

「あ、ありがとうございます！」

「さて、君の名前は？」

「翔^{ショウ}禅^{ゼン} 刹^{セツ}羅^ラです」

第一話（前書き）

原作よりアニメよりで書いていきます。
でも、まずはオリジナルストーリーからです。

第一話

「今日から登校日か。」

「アパパー、行ってらっしゃいよ、刹羅！」

「いつてらっしゃ・・・い」

「はい」

梁山泊の人達は皆良い人達なのでずいぶんと打ち解けることが出来た。

特にアパチャイさんとしぐれさんは一緒に行動することが多い。

「さて、あっちだったよな。」

・
・
・
・
・
・

「わーお、何でこんなところに遭遇する訳？」

不良同士の喧嘩。

まあ、ここら辺って意外と治安悪いしな。

「おっと、遅刻する。」

ガッ！

肩がぶつかった。

喧嘩している不良の肩に・・・

「何じゃワレエ。ぶつかってんじゃねえぞこら！！って、おわ！で
けえ！？」

「あゝあゝ、めんどくせ。」

「んだと！？ラグナレクなめてんのか？でかいだけのくの坊が」

「あゝ、はいはい。遅刻するから俺は行くんで。」

「まてや！」

「・・・うるせえな。」

「なんか、言ったか？」

「ひっ！？うわぁ！？」

気あたり。逆鬼さんが不良にやってた奴だ。

「おっと、早く、行かねえと」

この時、刹羅は油断していたため気がつかなかった。
影からその光景を見ていた者が居たことに・・・

・・・入学式って、いつ振りだろうな。
すんげえ久しぶりだ。

「これで入学式を終了します。各自教室へ・・・」

・
・
・
・
・
・
一年E組

「・・・ここが、来年兼一が来るクラス。そして俺のクラスか。」

作中の場所って見れると興奮するよね？

HR中・・・

「やっと・・・終わった。何なんだ。ホームルーム長すぎだろ。」

「おい、お前」

嫌な予感が。

・・・そう言えば美羽に買い物頼まれてたな。
あゝあゝ、めんどくせ。

「おい！きいてんのか!？」

「はいはい、なんですか？」

「お前、今朝のあれは何だ！」

「・・・えーと、南条　き、き・・・キハラ？」

「キ・サ・ラ!!」

「はいはい、解ったから。あれは単に相手が自分から吹っ飛んだだけだろう？」

俺はエスパーじゃあないんだから。」

「・・・なんで行き成りこんな奴に絡まれるんだ。お、もうこんな時間か。」

「じゃあ、俺は行くんで。」

「あ！ちよ、まてえ!!」

俺に追いつけるわけなからう。

・・・20分経過・・・

しつこいかった。やっと撒いたぜ。

意外と足速いな、本気全然出してないけど。

「さて、野菜買ったな。次の買い物は・・・」

何時も思っんだが、こんなに一気に買い込む必要があんのか？

「うへえ、肉5kgとか誰が食うんだよ。しかも酒の量おかしいぞ。逆鬼さん、書き足したな。」

さて、帰るか。

こうして俺の一日は終わっ・・・

「やっと見つけたぞ!!」

「しつこすぎだろう!!」

・・・もうちよっとな。はあ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2775p/>

史上最強の平和主義者

2010年12月10日17時11分発行